

第三部 官庁訪問体験記

このコーナーでは、経験しなければなかなか実態が掴めない官庁訪問の様子をお伝えします。後半では、春季と夏季の官庁訪問参加者に分かれて座談会を行っていますので、訪問前のイメージトレーニングに是非お役立てください。

なお、掲載している情報はあくまで令和 2 年度官庁訪問における経験に基づき、内定者の視点から語られたものであり、**来年度以降の官庁訪問のシステムや内容は以下と異なる可能性があります**。特に令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響で、過年度の形式と大きく異なりました。

－ 環境省の官庁訪問（総合職）の簡単な流れ －

令和 2 年度官庁訪問は春季と夏季の 2 度実施されました。**環境省ではすべてオンラインでの実施となりました**。春季は理工系区分の既合格者を対象として 6 月上旬に全 3 クールで実施され、例年通りのスケジュールとなりました。一方、夏季は新型コロナウイルスの影響により延期され、7 月下旬に全 3 クールに分けて実施されました。また、マッチングの場として事前面談会が新しく設けられ、6 月下旬～7 月上旬に全 3 クールに分けて実施されました。総合職試験の最終合格発表前に官庁訪問が行われるという、例年と比べ変則的なスケジュールとなりました。

最新の詳しいルールは人事院 Web サイトで公開されるので、事前にしっかり確認しておきましょう。

① 官庁訪問前

環境省 Web サイトから官庁訪問申込票等をダウンロードし、記入します。その後、指定された期間に上記資料を添付してメールを送り、官庁訪問の予約を行います。

② 官庁訪問初日

オンライン環境を整え、メールの指示に従いルームに参加します。初日からしっかり面接を行うので、気持ちの準備をしていきましょう。

③ 官庁訪問期間中

メールの指示に従い、オンライン面接を 1 日に数回行います。面接だけでなくグループディスカッションが行われる場合もあります。日によって形式は異なるので、臨機応変に対応しましょう。

④ 官庁訪問最終日（最終クール）

内々定！

－ 環境省の官庁訪問（総合職）の面接 －

面接回数は人によって異なりますが複数回行われます。面接では官庁訪問申込票を基に質問をされたり、自己PRを求められたりします。加えて、説明会では聞けないような具体的な業務内容を聞いたり、政策について議論したりすることによって、しっかりと環境省の業務内容を理解することができます。

時間は1回30分から1時間程度です。面接に呼ばれるまで時間がかかりますので、その間は面接の振り返りをしたり、ノートや申込票を見返したりして面接に備えましょう。

また、官庁訪問終了時刻は官庁によって異なりますが、環境省は比較的早い時間に終了し、帰宅させてもらえます。

－ 環境省の官庁訪問（総合職）の服装 －

官庁訪問はクールビズ期間中に実施されることが多く、軽装が推奨されています。そのため、志望者も半袖シャツを着たり、ネクタイを外したりした状態で面接を受けることが可能です。



それでは次ページからは座談会のパートになります！

令和3年度の内定者は**春季での官庁訪問参加者が4人、夏季参加者が4人**でしたので、それぞれ春組、夏組として座談会を実施しました。発言内容を要約し、編集を加えているため会話の流れが不自然な点があるかもしれませんが予めご了承ください。また、座談会形式のためフランクな文体になっておりますがご容赦ください。

－ 春季官庁訪問参加者による座談会 －

座談会メンバー

親知らず…司会。大阪在住。併願先：経済産業省、Sler（システムインテグレーター）。

公ペンくん…京都在住。併願先：農林水産省、電力会社、Sler。

ラベンダー…東京在住。併願先：シンクタンク、大学院進学。

くつかんちゃん…東京在住。併願先：特許庁、厚生労働省。

【官庁訪問に向けて準備したことは？】

公ペンくん：2週間前から官庁訪問申込票（ES的なもの）を書き始め、1週間前には書き終わった。ただ直前はバタバタしていて想定問答の文字起こしとかの準備はできなかった。準備としたら、深掘りされるとしたらここだな、とかそれに対する答えを考えた程度。あんまりがつり準備できなかった。あと白書も軽く読んでけど、役に立ったかはわからない。

ラベンダー：2日前まで学会の論文で忙しくて、前日しか準備できなかった。ニュースについて聞かれると聞いたので、最近の気になるニュースをピックアップして意見を考えた。志望動機を深掘りされても答えられるように、なんでそう思ったかとか根本的なところまで考えて準備した。

くつかんちゃん（以下、**くつかん**）：白書読んでた。用語がでたときに白書で見たって言えるといいなと思って。ただ、白書よりも自分の書いた官庁訪問申込票を読み込んで、どんな質問にも対応できるようにする方に力を入れた方がいいと思う。想定問答考える感じで。

親知らず：志望理由は何行ぐらい書いた？

くつかん：志望動機・関心分野等について書けと書いてあったので、志望動機9行、関心分野5行って感じ。

公ペンくん：僕は関心分野を志望動機に織り込んで書いて12行。強みもそれとなく書いてた。

ラベンダー：志望動機6行、関心分野10行だった。関心分野関連で色々聞かれた。

くつかん：人によって違うんだね。面接官との話題作りにつながるから、自分の強みをアピールしやすい話題をかいておくといいんじゃないかな。

ラベンダー：面接官は申込票を見ながら話してくれてる感じで、申込票に話題をちりばめておくとか拾ってくれた。話せることを正直に書くのがいいと思う。

【当日のオンライン環境、手元に準備したものは？】

くつかん：メモ取ってた。原稿は手元に置いてはいたけど、そんなにチラチラ見る余裕もないから結局頭にいれなきゃいけなかった。

公ペンくん：お守りぐらいに原稿置いてたけど結局見てない。

くつかん：軽食は短時間で効率的にとれるものを準備してた。スティックタイプのやつとか。

【オンライン面接で良かった点、悪かった点は？】

親知らず : まず良かった点は？

公ペンくん : 関東圏にいない人にとっては東京に行かなくていいのはすごいメリット。交通費掛からない。空き時間も家だとリラックスできる。

ラベンダー : よかったことしかない。オンラインでめちゃめちゃよかった。休憩時間が圧倒的に楽。環境省は待ち時間自由ですごいリラックスできた。

くつかん : 環境省は全てオンラインだったので家で出来た。併願する省庁が対面面接であるため地方から上京した人の中には、ホテルから参加している人もいた。

親知らず : 逆に悪かった点は？

ラベンダー : 志望者同士での情報交換がなかった点。情報を得るとか、仲良くなるとかはなかった。

くつかん : 僕は去年も官庁訪問を経験していて、他省庁だが、待ち時間の情報交換はたしかにあった。しかし、デマっぽいのが出回るときがある。偉い人であった人は有望視されてて、自分はあの面接官に会えてないから評価低い？みたいな不安を感じることもあった。志望者は不安だから限られた情報から自分の立ち位置を評価しちゃうので、不安な志望者同士が交流することで良くない状況になったりする。それが無いのは逆にオンラインの強みかも。

公ペンくん : 通信状況が悪くて、音が聞こえなかったり、ルームに入室できなかったりしたときは焦った。

ラベンダー : ルームに入ってくださいって電話来た直後に、間違えて電話をかけてしまい、向こうから電話がかかってきたのかと思い混乱した。オンラインは情報の伝達が難しい。

公ペンくん : ルームに入れなかったときの連絡先が環境省全体の秘書課？のところになっており、面接担当ではなかったなので、取り次いでもらうのが難しかった。

【官庁訪問全体の印象は？（他省庁も含め）】

公ペンくん : 民間と比べると、1日に複数回面接があるので、体力的にしんどい。これを乗り切らないと内定を貰えないというシステムは、仕事の過酷さがうかがえて中々大変そうだと感じた(笑) 向こうからどんどん質問してくる省庁もあったが、環境省は自分の仕事を紹介してくれる人が多かった。

くつかん : 印象としては説明会にいったのとそんなに変わらなかったなので、説明会にいったら割と雰囲気つかめると思う。自分の仕事について話す人が多いと感じた。説明会のときよりは実務によっていて少し硬い話って感じ。

公ペンくん : 説明会のときに質問することができたら、官庁訪問でも同じようにすればいいと思う。

ラベンダー : 官庁訪問は夜まで拘束されるという噂を聞いててびびってた。ただ環境省では全然拘束されなくて、5時、6時ぐらいには終わった。他のところはもっと遅かったところもあったらしい。終電って噂は関係なかった。

【環境省ではこういった質問、話をされた？】

- くつかん** : 割と面接官の方からの仕事の説明が多かった気がする。その後で志望動機とか典型的な質問。他には君はどういうことがしたい？とか、環境省で生きる強みは？とか聞かれた。あと、面接が進むにつれて困るような質問があった。住民と対立したらどうする？とか、いやな上司にどう対応する？とか、困るの想定していて能力試されてる感じだった。
- 公ペンくん** : 公務員だからマネジメント力、調整力が試されてる感じがした。業務説明があって、それに対する逆質問。こういうケースがあったんだけどどうしたらいいと思う？とか聞かれた。廃棄物処理場の建設に反対する住民をどのように説得するか？って質問が印象に残ってる。なんで地方公務員じゃなく国家公務員にしたのか？って質問もあった気がする。
- ラベンダー** : 志望動機の深掘り。エネルギー系の研究してるけど経産省はどうなの？って聞かれて、他の省庁との違い分かってるか試されてた。官庁は環境省しか受けてなかったし、環境省の業務内容とか他省との違いを紹介してくれることはあんまりなくて、ぐいぐい質問された。
- 親知らず** : 説明担当の人とか面接担当の人とか役割分担は感じた？
- ラベンダー** : 人によってやり方が違ったからあまりわからなかった。ただ、年次が高い人は面接感が強かった気がする。ツッコミ多かった。
- 公ペンくん** : 説明と面接交互にあった気がする。採用担当に、話したい人いる？って聞かれてセッティングしてもらったのは説明っぽかった。

【環境省の面接で気を付けていた点は？】

- 公ペンくん** : ちゃんと話聞いているってアピールするためにめっちゃうなずいてた（笑）
- くつかん** : 環境省だからといって特別に気を付けたことはないかな。ただ、成長を見せられるようにした。
- ラベンダー** : 自分の意見を否定されたときは、受け入れつつも全部は流されずに、さらにもう一度意見を言うようにしてた。負けずに自分の意見を主張する。
- 公ペンくん** : たしかに大事かも。ただ反発するだけじゃなくて、意見を受け入れつつも意見を言うのが大事。自分の意見を無理やり押すのではだめ。黙りこまないようにもしてた。
- くつかん** : 身なりは整えた方がいい。ただ、清潔感は大事だけど、役人ヘアー（キッチリ七三分け）まではしなくてもいい。意外とみんな普通の髪形だった。あとは、何か注意することはあるかときくと、目がカメラを向いてなくて、話を聞いてないように感じるって言われたので、カメラを見るようにはしてた。
- 公ペンくん** : 顔近づけすぎなんじゃない？（笑）適度な距離を保てばカメラ見てなくてもそこまで気にならないと思う。

【環境省の面接で苦労した点は？】

- ラベンダー**：事故とか事件が起きないと国民の意識は変わらないと思う？とか、どうやったら環境意識高められると思う？って聞かれて困った。私の志望動機の流れて出やすい質問なのか、何回か聞かれた。
- くつかん**：僕も最終面接で聞かれた。申込票に基づいて質問きがちだから注意。
- ラベンダー**：あと、国会議員にダメ出しくらったときどうする？って聞かれた。一度はめげずにもう一回やりまして言うと驚かれた（笑）正解が分からなくて困った。
- 公ペンくん**：次の面接まで時間あると思って買い物に出たら、急遽時間が早まって間に合わなくなって、焦って電話するみたいなハプニングもあった。オンラインならではかもしれないけど、昼ごはんゆっくり食べすぎるとだめかも。時間変更に対応できるようにするといい。

【空き時間はどのように過ごしていた？】

- ラベンダー**：シャツまで着替えてベッドで寝転んでた。
- 公ペンくん**：元気のある前半は面接後振り返りをやってたけど、最後の方は疲れてたから寝てた。
- くつかん**：人がいっぱいでてくるから顔と名前が一致するように復習してた。採用担当の方と同じ苗字の方が出てきたので、混同しないように必死だった。
- ラベンダー**：あとは、メールに面接官の名前と所属する課の名前が書いてあったから確認してた。

【自分が評価された、見られていると感じたところは？】

- くつかん**：面接中に成長を見せるのが大事だと思う。
- 親知らず**：成長って具体的にどんな感じ？
- くつかん**：まず知識として環境省のことが分かってきてるか。そして、話をできて環境省で生きる自分の強みが分かってきてるかって感じ。
- 公ペンくん**：話を聞いた上で自分の意見が変わったり、変わらなければその理由が言えたりとか、何かしらの変化を言葉で表せることができると思う。
- ラベンダー**：自分の考えが偏ったものであったことを面接で知って、面接を通して視野が広がり、考えを修正することができた。言われたことを覚えておくの大事。
- 公ペンくん**：午前中にこういう話を聞いたとか言えれば、ちゃんと覚えてるアピールになると思う。～さんの話を聞いてこう思ったとか言えるとよさそう。
- ラベンダー**：採用担当には、元気にハキハキと質問にちゃんと答えれば大丈夫だと言われたので、そういったところが見られてたのかも。
- くつかん**：改善した方がいい点とか言われたら、気を付けてその後の面接に臨むといい。僕の場合は話が拡散しやすいと言われたので、論点を絞って話すようにした。
- 公ペンくん**：いろいろな立場の人、バックグラウンドの人と関わるので、ちゃんと話ができるか、親しみやすさ、コミユカ見られてたと思う。田舎の人とコミュニケーション取ったガクチカ*でアピールした。（*ガクチカ＝学生時代、力を入れたこと）
- ラベンダー**：学生の経験の話で強みアピールできるといいね。

【官庁訪問を受けて、環境省へのイメージは変わった？】

- くつかん** : イメージは変わってない。ただ、説明会のときは若手の人が一般向けの話をされていて、実務のイメージがわからなかったけど、面接ではベテランや現場でまさにやってる人とじかに話せるので、具体的なイメージやスケール感が説明会のときよりも湧いて理解が深まった。こういう変化を見せていくのも大事だと思う。緊張してたからナーバスになってて、あんまり優しいとは感じなかった（笑）
- ラベンダー** : ポンポン会話が続き、和やかな雰囲気面で面接できた人が多かった。全体的なイメージは変わってないけど、**環境問題に対する考え方やアプローチが違う人が集まっています、多様性や幅の広さを感じた**。考え方は多様でいいんだと思った。
- くつかん** : 内定式でも多様性大事にしてるって言ってた。
- 公ペンくん** : イメージ変わった。環境省の特徴はいろんな人がいること、多様性があることだと感じた。人だけじゃなくていろんな業務もある。福島を除染からペットまでやってる。**他の省庁や企業がやりたがらないけど、大事なことをやってる省庁だと感じた**。
- 親知らず** : イメージ変わった。規制官庁ってイメージがあったが、積極的にいろいろやってることを知れた。官庁訪問を通じて雰囲気を知れた。
- くつかん** : 他の官庁と比べてもフレッシュさが大事にされてると感じた。
- ラベンダー** : 人数も少なめだし、若手も責任もてる。風通しがいいってのが特徴だと思う。
- 公ペンくん** : たしかに他の省庁とは全然雰囲気が違った。某省庁も受けたけど、歴史が長い部門で、今までやってきたことをこれからもしっかり続けていこうって雰囲気で、新しいことをしようって感じはあまりない。今あるものを守るために新しい手法を入れてみようって感じ。**環境省はただの規制官庁じゃなくて、積極的に環境問題を解決しようとするところに惹かれた**。
- ラベンダー** : 他の省庁と比べるとより環境省のこと分かるんだなって思った。私は環境省しかみてなかったけど、**他の省庁の説明会とかいっとけばよかったと思う**。どうして他の省庁じゃないか聞かれたときにちょっと困った。
- くつかん** : 他の省庁はどうって聞かれたときに、吟味したうえで環境省だと断言できるといい。

【志望者に向けて一言】

- 公ペンくん** : 環境省を志望されるみなさん。環境省を受けるからといって、特別にしないといけないことはないと思います。自分がなにをやりたいか、環境省に入ってなにをしたいかをしっかり伝えることが大事だと思います。がんばってください！
- 親知らず** : あらゆる選択肢を検討したうえで環境省がいいと決断することができれば、後はそれを言葉にして伝えるだけで大丈夫だと思います。悔いのない就活にしてください！
- ラベンダー** : 事前に自分の意見をかためておいて、緊張しすぎず官庁訪問の場で伝えきるのが大事だと思います。
- くつかん** : 自分の意見をしっかり言うのが大事だと思います。内定を貰った後も、内定式を経てもここに内定貰えてよかったと思えているので、みなさんも環境省を受けてみるといいのではないのでしょうか。待ってます！

－ 夏季官庁訪問参加者による座談会 －

座談会メンバー

親知らず…司会。春季官庁訪問参加。

せり鍋…宮城在住。併願先：特許庁、原子力規制庁、環境系コンサル、独法など。

やきなす…神奈川在住。併願先：特許庁、厚生労働省、シンクタンク。

ゆでだこ…北海道在住。併願先：政策金融、コンサル、シンクタンク、メーカー。

よんち…大阪在住。修士1年。併願先：経済産業省。

【官庁訪問に向けて準備したことは？】

よんち：説明会でもらった資料を読み返した。自分のしたい政策に関する話をするために、従来の政策を確認した。

せり鍋：想定問答集を作って自分の中で整理した。大学院の授業が環境に関するものだったので、授業の資料を読み返したりした。あとは政策理解のために白書を読んだ。

親知らず：他に白書読んだ人は？

よんち：読もうと思ってやめた（笑）

ゆでだこ：白書は読もうと思って買ったけどきれいな状態のまま（笑）パラパラめくって読んだ程度で、あんまり読む時間無かった。

せり鍋：私もがっつり読んだわけではなくて、あらましとか主要なとこと、興味のあるトピックのそこだけ読んで面接に備えた。

やきなす：内定式のときに白書の話になって、環境白書よりもこども環境白書の方が分かりやすくていいんじゃないかと先輩が話してた。重要どころがまとめてあるので、環境にあまり馴染みがない人はこども環境白書を読んだ方がいいかも。

【当日のオンライン環境、手元に準備したものは？】

やきなす：面接後、話した内容を書けるようにメモ帳を置いていた。何喋るかとか原稿みたいなものは特に用意してなかった。心の安定のために、パソコンの横にぬいぐるみを置いていた。

ゆでだこ：パソコンのカメラの位置を調整するためにPC台を買った。あとは顔が暗くならないようにライトを買った。面接中にチラチラ見るのも印象が悪いと思い、原稿みたいなものは置かなかった。

よんち：面接と面談の違いがはっきりしてたように感じたので、面談のときはがっつりメモ取ってた。

せり鍋：面接中に話の内容をメモに取ったりしていたが、なるべくカメラから目線を外さないように気を付けていた。ただ、後から見返すと何かいてるかわからなかった（笑）効果あるか分からないけど、オンラインだし化粧をちょっと濃いめにした。面接前にメールで面接官の名前が分かったので、幹部名簿を見て部署とか確認してた。

ゆでだこ：僕もやってた。名前見た瞬間ググってた。

【オンライン面接で良かった点、悪かった点は？】

親知らず：まず良かった点は？

ゆでだこ：現地に行かなくてもいいのが一番良かった。

やきなす：関東にいても思った（笑）

ゆでだこ：飛行機代とか馬鹿にならないので。あとは面接の合間にベッドで横になれたのがリラックスできてとても良かった。（全員同意）

親知らず：逆に悪かった点は？

よんち：あえて挙げるなら、志望者同士の情報共有ができなかったことぐらい。オンラインの待合室だと職員の方もいるしそこまで気軽に話せなかった。

せり鍋：オンラインの待合室はあまり人いなかったけど、面接が終わったら待合室のルームに戻って若手職員の方とお話する場合もあった。ただ、ずっと質問したいことがあるわけでもないし、本音を言うとは勉強したかった。志望者同士の交流っていう面では対面の方がやりやすそう。

やきなす：URLが違う人に送られてしまい、そのせいで面接の時間に遅れてしまった。電話かかってきたりゴタゴタして大変だった。オンラインならではのアクシデント。

【官庁訪問全体の印象は？（他省庁も含め）】

よんち：環境省に関しては、ちゃんと20時前に終わってホワイトだなって思った（笑）他の省庁では退庁したのが22時で、23時半に連絡がきたところもあった。環境省はほとんど20時前に終わったので、その時点で環境省いいなって思った。

せり鍋：私は逆に環境省が一番遅かった。それでも20時前だけど。午前中に終わった省庁もあった。

やきなす：私は午後から面接始まったりしたから、人によるかも。

ゆでだこ：官庁は環境省しか受けてなくて、民間をメインで受けていた。官庁と民間の面接を比べると、官庁の方が鋭い質問をしてくると感じた。深掘りも深いし、答えのない質問が多かった。この政策どうする？とかこうなった場合どうする？とか。

【環境省ではこういった質問、話をされた？】

親知らず：鋭い質問ってどういうの？

ゆでだこ：政策の話を聞いた後に、君だったらどうする？とかどういう風に問題に対処していく？とか。こうします！って答えたら、でもそうだとこうなるよねみたいな感じで延々と続けられた。何言ってもダメじゃんって思った（笑）

せり鍋：ガクチカとか志望理由を話して、それを深掘りして政策論につなげていくみたいな流れが多かった。それぞれの職員さんの純粋な興味で質問されたり、政策の課題についてディスカッションしたりする場だと感じた。

やきなす：環境省の政策についてまとめた資料を送ってくれたりもした。参考にしてねって。

ゆでだこ：僕が民間メインで就活してたこともあって、民間から転職してきた人の話も聞いた。民間と環境省の仕事の仕方の違いを教えてもらった。

【環境省の面接で気を付けていた点は？】

よんち : なるべく黙り込まないように、考えながらも話し続けるようにしていた。

あと嘘はつかないようにした。割と自然体で話したつもり。

ゆでだこ : OGの人に、官庁訪問で見られるのはどれくらい知識をもっているかじゃなくて、**原課面接**とかで話してもらった内容を吸収してどれだけ自分の考えとして昇華できるかをみられると聞いていた。なので、聞いた話を自分の意見の中に自分の言葉で取り込んでいくことを意識していた。

【環境省の面接で苦労した点は？】

ゆでだこ : 大学で環境系の勉強をしていることをアピールしていたら、今の環境省は環境一本じゃなくて、他の分野と共同しながらやっていくので、環境だけを勉強している人はあんまりなんだけど、君は環境の知識以外に何を持ってるのって聞かれた。優しい口調で笑いながらすごいこと言うなって思った（笑）

よんち : そこまで鋭い質問はこなかったけど、M1で就活してるのなんでっていうのを深掘りされるのはしんどかった。来年でもよかったし、チャンスが増えればいいなって気持ちだったけど、さすがに言えなかった。どういう風に伝えるかで苦労した。

やきなす : 時間が余ったときの逆質問。興味ある話だといいが、なかなか質問が思いつかない話のときは大変だった。**質問を考えながら話を聞いていた。**

せり鍋 : 1時間逆質問で終わった人もいた。たしかに聞くことはいっぱいあるけど、どういう風にきけばいいとか、どんな深さできけばいいとか手探りで進めるのが大変だった。とりあえず仕事の内容を聞いて、聞きながら質問を考えることで乗り越えた。

よんち : 終盤の面接になってくると、すでに多くの職員さんの話をきいてるので、逆質問がなかなか思いつかず苦労した。

【空き時間はどのように過ごしていた？】

せり鍋 : ごはん食べる、ごろごろする、勉強するのどれか。試験前だったので、過去問を解いたりしてた。オンラインのおかげでだいぶリラックスできた。

やきなす : 同じような感じ。研究のミーティングしたりもしてた。

ゆでだこ : 面接して話してもらった内容をメモにとって、新しく学んだことと自分はどう考えるかを書いてた。その後はスーツ脱いで寝てた。料理作って気晴らししたりもした。面接で頭爆発しそうだったんで勉強はしてなかった。

よんち : シャツのままベッドにダイブしてタイマーかけて15分だけ寝てた。勉強は時事問題だけやってて、過去問はやってなかった。

【自分が評価された、見られていると感じたところは？】

- やきなす**：自分の専門である環境の知識を活かして環境省で働きたいという話をしたけど、環境省はそれだけじゃなくて、今までやったことないことにも手を出してもらうことになるけど大丈夫？とか幅広く仕事をしていくことに抵抗がないかを見られた気がする。全く問題ない、むしろそれがいいって言えたのは評価されたように感じる。専門分野だけじゃないとアピールできるといいかも。
- ゆでだこ**：法律作ったりもあるけど、環境省は市民とか環境団体の人との話し合いもあるので、コミュニケーション力が必要だと繰り返し言われた。ちゃんと会話が出来るかを見られた気がする。嘘をつかず、等身大で話せたのも良かったかも。
- せり鍋**：研究内容はそこまで聞かれなかった。ガクチカとかアフリカに行ってた話を主に聞かれた。面談でも国際系の人を付けてくれて、特性に合わせてくれてると感じた。評価としては、いかに自分の頭で考えて話せているかを見られてると感じた。知識とかじゃなくて、自分がどう考えて、どう思うのか。自分で考える力、それを発信する力を見られたと思う。

【官庁訪問を受けて、環境省へのイメージは変わった？】

- せり鍋**：人当たりのいいひとが多く、イメージ良くなった。環境省はちゃんと話してちゃんと聞いてくれる人が多い。面接っていうより、議論とか面談に近かったように思う。志望動機も聞くけど、その人のことを分かろうとして聞いてくれてる感じがした。
- ゆでだこ**：環境省一本で説明会も結構行ってたのであまりイメージは変わらなかった。ただ、いろんな人と話すうちに、いろんな考えの人がいると思った。自然環境を守るってだけじゃなくて、どう利用していくかを重視している人もいれば、野生動物の保護を第一に考えてる人とか色々いて、いろんな人たちがいる中で議論を交わしていくことで政策は生まれていくんだと感じた。みんな優しくて、いい人達だった。
- やきなす**：あまり説明会には参加できてなかったけど、イメージがかわったとかはない。話しやすい人が多いなって印象。
- よんち**：イメージ良くなった。官庁訪問は長時間拘束されるし面接も多くて大変って印象があり、実際そういう省庁もあったけど、環境省はフレキシブルで、志望者と面接担当者の両者にとって合理的な選考をしていると感じ、他と比べていいなと感じた。話してても、僕の意見を否定するのではなく、理解したうえでの意見を言ってくれて、人当たりの良さを感じた。いい人しかいないと感じた。

【志望者に向けて一言】

- せり鍋** : 官庁訪問は結局価値観のすりあわせで、自分の価値観と省庁の価値観の一致度で採用不採用は決まってると思います。他の省庁で合わないなって思ったところは実際落とされて、環境省の価値観は自分の価値観に合ってたから採用されたんだと思います。環境省一本に絞るのではなく、説明会やインターンとか参加してみて、自分の価値観と省庁の価値観がどれだけ合っているかを見極めて志望すると、お互いにミスマッチもないし、いい結果になると思います。なので、志望者のみなさんは、就職活動のなかで自分の考えとか自分の思っていることを見つめ直して、自分のやりたいことができるような仕事を目指していくといいんじゃないかと思います。
- よんち** : 内定者の声を読んでもらうということ、興味があるのであれば、積極的に自分から動いてほしいと思います。僕は 4 年生の頃から、関西では機会が少ない中、説明会や職員訪問のチャンスがあればなるべく参加するようにしました。採用側も採用したくてやってるので、こっちから会いたいですとか話聞きたいですとかいうと丁寧に対応してくれると思います。情報収集や職員訪問のアポイントをとるといった行動力は内定につながるんじゃないかと思います。
- やきなす** : 官庁訪問していると、たくさんの職員さんと話す中で自分の志望動機がどんどんクリアになってくるので、話すことを楽しんでもらいたいです。それを消化して自分のものにしていくと志望動機はきれいにかたまって、偉い人にも臆せず話せるようになると思います。官庁訪問を通して、吸収できるものは全部吸収してほしいと思います。
- ゆでだこ** : 仕事っていう手段を目的化してほしくないと思います。官庁訪問の前に、自分がどういった仕事をやりたくて、数ある就職先の中からどうして公務員で環境省なのかというのを固めて、自分の中で結論を出してそれを官庁訪問で出せばうまくマッチングして、お互い良い結果になると思います。その結果が公務員じゃなくてもいいけど、環境省で一緒に働けたら嬉しいです。

おわりに

ここまで読んでいただきありがとうございます。いかがでしたでしょうか。

本書は構成から内容まで、すべて内定者が主体となって作成しております。その分、ひとりひとりのプロフィールや生の声に焦点を当て、就活生にとって身近な就活本になるよう努めました。私たちがどのように試験対策に取り組み、試行錯誤し、どのような考えをもって、環境省を目指したのか、皆さんが環境省を将来の選択肢として考える際に少しでも役立てていただけたらと思っております。

この「内定者の声」は次に環境省を目指す皆さんへ我々内定者からのバトンです。私たちとともに、環境問題の最前線に立って日本、そして世界の未来を作っていきませんか？ **内定者一同、皆さんをお待ちしています！**

2020年12月 環境省総合職理工系内定者一同